

特集

広域静苑組合 越生斎場

平成30年12月22日に開場式が行われ、新しく生まれ変わった越生斎場。坂戸市が新たに加入し、越生町、毛呂山町、鶴ヶ島市、鳩山町、坂戸市の2市3町で運営していくことになりました。



広域静苑組合では、平成24年に坂戸市から組合加入の要請を受け、火葬炉を増やす増改築の設計が始まりました。

安全面を考慮して新築に変更

旧越生斎場の位置は建物裏側法面の安全性に対し懸念事項があったため、増改築から敷地北側への新築案に変更となりました。

12月22日に建物が完成

平成29年5月から始まった斎場新築工事は、平成30年12月22日に建物が完成し、坂戸市が組合に加入しました。そして、翌23日に火葬が開始されました。

今後は、旧越生斎場の解体や駐車場整備が順次行われます。

斎場は、普段の生活で使用することはありませんが、大切な方との別れの場として、だれもが使用することのある大切な施設です。今月は、皆様が使用するそのときを、有意義な時間にするために生まれ変わった新越生斎場を紹介します。



火葬炉ごとの待合室

一つの火葬炉に対して、一つの告別・収骨室、待合室が立体的につながる日本初の空間になりました。



火葬炉が4基から6基に

以前は1箇所だった告別ホールも炉ごとに併設され、受け入れ可能件数が約2倍になりました。

越生斎場のポイント

ココが
変わった!

利用者の気持ちを考えた

越生斎場のこだわり

キッズスペースの確保



町の情景を感じられる空間



気持ちが落ち着くアルコーブ



洗練された設備のデザイン



ホッと一息つけるラウンジ



お別れの空間づくり

越生斎場は、皆様の最後のお別れの空間としてふさわしいように、こだわりぬいた設計・設備になっています。

外観は小幅板型を利用し、柔らかな味わい深い表現とし、周囲に圧迫感を与えないデザインになっています。

エントランスホールは、天井の高い空間と壁にタイルを設えた重厚感ある空間にすることで、お別れの場所としての緊張感を作り出しています。

告別後に二階にある待合室から遺影を見ることが出来る構造になっており、高齢の方など移動が大変だと感じる方には、火葬中の最後のお別れを待合室から行えるようになっています。また、一息つけるカフェのようなラウンジや、一人で落ち着けるアルコーブ、小さなお子様のいるご家族でも安心して利用できるようにキッズスペースや授乳室も完備しています。

アルコーブに設置している椅子、テーブルや食事を運ぶ台車など、職人が精魂を込めて作ったものも多く、設備の一つ一つが斎場にふさわしいデザインになっています。